

2021 年度（第 43 年度）事業計画

自 2021.4.1～至 2022.3.31

新型コロナウイルス感染症は、我々の社会にかねてから存在していた、低成長、少子高齢化、財政赤字、格差問題、環境問題といった課題を増幅した。

一方で、課題を取り巻く環境としての、国内外の政治情勢、情報や生命に関する科学技術、そして人々の価値観や行動もまた、予想を上回る速さで変容しつつある。

こうした状況下、本会活動においては、感染予防対策として一部事業の中止・縮小などの制限を余儀なくされたものの、「新しい生活様式」の定着を図りつつ、今日的に極めて重要なテーマに関する活発な議論を通じて、あるべき「国のかたち」についての会員の知見を高めてきた。

今日、いや増す時代のうねりのなかで、「今までの延長でいいのだろうか」「新たな分野や新しいやり方はないだろうか」と、危機感や使命感を新たにされる会員も多かろう。守りばかりではなく、環境の変化をチャンスとみなし、社会課題の克服に貢献することで、新たな成長をめざそうとする姿勢は、本会の基本精神に沿うものでもある。

本年度は、そうした会員が、新たな気付きや、自らの心を励ます糧を探索する場として、「文化」と「創業」をキーワードに、6 部会・4 委員会を設置する。活動においては、当分続くであろう様々な制約の下で、現場を実際に体感する機会を少しでも多く提供できるよう、工夫を重ねていきたい。

部会では、「北部部会」を研究委員会から部会組織に改め、京都府北部地域の活性化の実現に向けて、中長期的な視点も踏まえて継続的な活動に取り組むこととする。

委員会では、文化庁の本格的な京都移転への機運醸成と円滑な移転に向けた「文化庁との共創特別委員会」を設置するとともに、「文化と経営研究委員会」、「スタートアップ・エコシステム研究委員会」、「教育についての研究委員会」の 3 つの研究委員会を立ち上げる。

また、本年 10 月に京都で開催予定の第 118 回西日本経済同友会会員合同懇談会に向けた準備委員会を設ける。

文化は、人の心の「ときめき」に根ざすものであり、見えないものを見る力の源でもある。京都の長い歴史を通じて、文化と経営は、手段と目的の関係を超えて相互に循環しつつ支え合ってきた。一方、遠く離れたもの同士を結ぶことからイノベーションが生まれると言われている。創業の支援を通じて異分野に触れ、また自社創業の姿に思いを馳せることから得られる価値は、「情けは人のためならず」の例えの通りと言えよう。

今日明日の経営に直接資する効果は小さいかもしれない。また、このまち、この国、この世界が直面する課題への解決策は安易に見つかるものでもない。しかし、この活動を通じて、会員一人ひとりがヒントや力を得られるならば、大きな変化をもたらすことができると確信している。

以下は、各部会・委員会の活動方針である。

〈 部 会 〉

1. 総務部会

本部会は、担当する会務・財務・広報および事務局運営等について、適切な管理に努めるとともに、本会の円滑なる運営と組織の活性化、および会員相互の交流と資質の向上に向け、取り組みを進める。

本年度は、引き続き Web 出欠管理システムの運用強化に取り組み、本会ホームページ会員専用ページの利用率向上に繋げるとともに、Web を活用したスピード感ある情報発信をめざす。

また、コロナ禍の先行き不透明な情勢のなか、社団法人の使命でもある目的事業の遂行を実現するためにも、一層のペーパーレス化や経費節減に積極的に取り組み、本会活動における効率化、事務局運営のさらなる業務効率化をめざし、持続可能な財政運営を努める。

その他、10 月に京都において開催される第 118 回西日本経済同友会会員合同懇談会に向け、プロジェクトと連携し、事業運営体制や財務管理等の諸準備に取り組む。

2. 例会部会

本部会は、会員が定期的に一堂に会し、気付きや学び、会員相互に交流を図る例会の企画・運営を担当する。

本年度も、講師の招聘による講演会形式を中心に、例会を運営する。

「文化」や「創業（スタートアップ）」などの新しい委員会のテーマを意識した講演を企画するとともに、これまでから会員ニーズの高い企業経営の最新のトレンドや話題性のある企業経営者の講演を行う。

また、150 名規模の場として設定できる例会を、各委員会や青年政策研究部会をはじめとした各部会の活動の場として活用するなど、部会・委員会との共催例会にも積極的に取り組むこととした。

3. 交流部会

本部会は、日帰りの視察を中心とした企業ビジットの開催等、会員相互の交流と理解、会員自身の“気付き”の場となるよう趣向を凝らした事業を企画する。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、交流事業の中止を余儀なくされたが、人と人との交流の重要性を再認識することができた。本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、近隣の経済同友会との交流や懇談を企画・実行したい。

また、本年度は 10 月に京都において第 118 回西日本経済同友会会員合同懇談会が開催されることから、プロジェクトと連携し、WITH コロナ・POST コロナ社会にふさわしい懇談会やエクスカージョンの運営に取り組みたい。

4. 北部部会

この度、「北部を考える研究委員会」から「北部部会」として改組することとし、より中長期的な視点で京都府北部地域を見つめ、活性化の実現に向けた活動を展開していくこととする。

元来の政策研究から、北部経済のみならず、経済人の人的交流をより一層図るためにも、北部企業の会員増強等に繋がる事業をしていきたい。

また、コロナ等に起因するスピード感ある時代変化をしっかりと受け止め、これからの社会においてどのような地域が望まれているのかを明らかにし、課題の把握と解決方法の模索を行う。本会員の多様性のある意見を取り込み、北部地域の会員をあげて、北部地域の活性化に向けた新しい価値を創造していきたい。

5. 青年政策研究部会

本部会は、2021年度のテーマを「バランス感覚を磨く」とする。

経営者の道を歩み続ける上で、さまざまな選択肢に迫られることになるが、常に時代の潮流を俯瞰し、優れた「バランス感覚」をもって最良の選択を決断していかなければならない。特に、アフターコロナで不確実な未来への対応が迫られているなか、どのような感覚をもって、危機と対峙し、未来を拓いていくべきか。伝統と革新、安定と成長、不易と流行、信念と柔軟性など常に求められる二律背反の「バランス感覚」を、部会を通して研ぎ澄ましていきたいと考える。

また、本年度がどのようなかたちで運営できるか不透明な部分が多いが、部会員全員に対して安心して参加できる設えで、実りある時間をもてるよう心掛けたい。

以上のことから、講師は経営者だけに限らず幅広い分野で成功を収められた方に、オンライン開催やリアル開催のバランスを取りながら例会を実施し、バリエアブルで収穫の多い運営をめざす。

6. 支店長部会

本部会は、京都支店長や京都支社長等で構成され、「外から見た京都」という視点を本会活動に活かすため設置されている。設置後6年を経て、地元企業との交流に努め、一定評価も得て、活動も定着しつつある。

本年度も、京都や地元企業への理解を一層深めるために、京都企業の視察、会員による講演、部会員らによるパネルディスカッションなどを積極的に企画・実施する。

また、引き続き多様なテーマを研究する各委員会と連携し、部会員の本会活動への積極的な参加に繋げたい。

〈 委 員 会 〉

I. 特別委員会

1. 文化庁との共創特別委員会

文化庁の京都移転は主要省庁の東京集中を避け、地方移転による創生の一環として位置付けられ今に至る。

京都に地域文化創生本部が設置され、約4年。「文化財を活かした観光・まちづくり」「暮らしの文化を振興・普及」「障がい者による文化芸術活動の推進」「新時代の文化政策調査研究」など、従来とは異なる視点とその成果も見受けられる。

今、様々な価値観が重要視される現代社会にあって、個人として、地域として、国としてのアイデンティティーの源のひとつとも成り得る文化の果たすべき役割は大きくなっていくことだろう。

文化庁の京都への完全移転に向けて機運醸成を図りつつ、それを受け入れる自治体はどのように文化を活力として活かすことができるのか。また文化首都である京都を起点として、暮らしの豊かさをどのように共に創造していくことができるのか。文化行政のこれまでを振り返り、また京都のみにとどまるのではなく、日本の文化の現状や課題、そして文化の再生・創生によるまちの在り方や持続可能な社会構築について専門家の知見を交えつつ、忌憚のない議論、学びの場とすることを目的としたい。

II. 研究委員会

1. 文化と経営研究委員会

私たちの営みは、文化と文明の相乗効果ではないだろうか。人類が火を発見してから、未だ他の生命体に火は発見されていない。火を吾が物にした私たちは、文明の多様な発展と文化の崇高な展開を成し遂げて、今日の繁栄を実現している。

文化庁の京都への本格移転を迎えるにあたって、その意味するところを、今一度考察する必要と責任が、私たちに求められている。「なぜ京都なのか」「なぜ科学技術庁ではなく文化庁なのか」「なぜ今なのか」などについて、多角的な視点で今一度考察を重ねるだけの価値があると思う。

一方、企業や組織を経営するにあたって、文化とどのように向き合えば良いのだろうか。「文化を経営する」「文化を実践する」「文化に貢献する」「文化を啓蒙する」「文化を育成する」「文化を発信する」「文化に学ぶ」など、文化と経営を主題として多くの事例に学び、様々な角度から議論風発を重ね、力強く発信し、個性豊かに実践していきたい。

一つの結論を求めるような場ではなく、十人十色という言葉の通り、個性豊かな展開があって然るべきだと考える。しかしながら、10人みんなが衣食住を生活の基本とするように、10人がそれぞれ文化力を意識して日常に展開すべきなのだと再認する。私たちは、「京都」というキーワードも強く織り込んで、文化と経営のあり方を日本の文化首都から世界に問うていきたいと願っている。

2. スタートアップ・エコシステム研究委員会

2020年7月、京阪神連携の「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が、国の「スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市」に選定され、京都で発掘・育成したスタートアップ企業を、京阪神でより多くの投資家に繋ぎ、京阪神や国が有機的に連携しながら世界に伍するスタートアップの創出支援に取り組むこととなった。

本会においても構成団体として参画している「京都スタートアップ・エコシステム推進協議会」をプラットフォームとして、京都らしいスタートアップ支援の在り方や京阪神との連携等について活発な議論と具体的な支援策の実施が期待される大事な時期を迎える。

長い年月にわたり「伝統と革新」を大事にしてきた京都が100年先も京都らしくあり続けるためにも、新たな価値を創造するベンチャー企業や、地域の社会課題に向き合うスタートアップ企業の育成は大変重要であると確信する。

本委員会では、「対話と連携」をキーワードとしてスタートアップ支援のあるべき姿を考え、実践に繋げていくため、起業家や将来起業をめざす学生と会員との対話、大阪や神戸をはじめ近隣他府県の経済同友会との対話など、様々な人々・機関との対話を通じて問題意識を共有するとともに、各方面との連携の余地を探り、「エコシステム」にふさわしい「社会全体でスタートアップを応援する仕組み」について議論していきたい。

特に「連携」については、起業家同士の連携やベンチャーキャピタルによる資金支援にとどまらず、大学や学生との連携、地元企業との連携など「起業家を応援するコミュニティの形成」に重点を置き、その在り方について考えていきたい。

3. 教育についての研究委員会

本委員会は、日本の文化首都、また、ベンチャー企業発祥の地ともいえる京都の独自の魅力を活用・発展させ、創業人材の輩出を通じて経済・社会価値の拡大・発展に結びつけるべく、そのためのエコシステムや教育の在り方を考える。

ついでには、現状社会に広く蔓延している、使命感の欠如、チャレンジする勇気の低下、取り組むエネルギーの枯渇などの克服と未来に向けた前向きなマインドの醸成を最大のテーマと捉え、近代日本産業化の恩人である渋沢栄一から創業・起業の爆発的推進を学び、「志あるプロデュース能力と人材、それをはぐくむ風土」の地域的開発について教育という切り口から研究する。

その上で、京都の経済的・社会的価値を形成してきた伝統文化、ベンチャー企業の創業者より、生き方、事業、思い、ビジョンを学び、今後の京都がグローバルな独自の存在感を有し、ローカルな満足度の高い地域としての発展を実現するにあたって、広く学校教育あるいは、生涯学習も視野に入れた教育全般との関係から考えたい。

併せて、次世代育成に関連するグローバル人材開発センターや京都教育懇話会等の諸団体との連携や京都学生祭典も引き続き担当する。

〈 スポットの事業 〉

第 118 回西日本経済同友会会員合同懇談会実行委員会

第 118 回西日本経済同友会会員合同懇談会実行委員会が、本年 10 月に、本会の担当により京都にて開催される。この懇談会は、愛知県以西の西日本地区 18 経済同友会が、持ち回りにより合同開催するもので、京都では、関西地区経済同友会会員合同懇談会として開催した第 111 回大会以来、8 年ぶりに担当することとなる。

昨年度開催を予定していた大阪大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、やむを得ず中止となったが、本年度は、感染防止対策をしっかりと講じた上で、2021 年 10 月 15 日(金)～16 日(土)の日程で、国立京都国際会館で開催する予定である。

そのため本会では、村田大介代表幹事を実行委員長に、受け入れのための第 118 回西日本経済同友会会員合同懇談会実行委員会を発足させ、「総務部会」「企画部会」「登録動員・接遇誘導部会」の 3 部会体制により、企画や準備にあたり、万全の体制で臨むこととしたい。

コロナ禍の状況を見極めながら、WITH コロナ・POST コロナ社会にふさわしい懇談会とすべく運営にあたる所存である。会員各位の絶大なるご支援とご協力を心よりお願いしたい。

〈 準会員組織 〉

企業幹部研究会

本研究会は、時宜にかなったテーマを取り上げ、メンバーの自主運営により、充実した活動を展開したいと考えている。

具体的には、本会の役員等を講師に招いての講演例会、メンバー自身による研究発表、企業視察、宿泊体制でのぞむ合宿例会等、多彩な研究活動を展開する予定である。

また、各例会活動への積極参加を求めるとともに、準会員の特性を十分に活かすべく、本会主催の諸事業にも積極的に参加していく方針である。

以 上